

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野の4領域において、指導教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→指導教員の追加任用(2013年度までに1名)。	C	C	B	A	A
2. 担当の見直しを行い、上記4分野の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開(WE B等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載]) (2013年度までに作成・公開)	C	C	B	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程指導教員として2012年度に准教授1名を任用(実践分野[実践神学・臨床牧会学])。また、2013年度には准教授1名(歴史・文化分野)、後期課程指導教員として教授1名(聖書分野[新約聖書学])を任用している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生の研究テーマの広がりに対し、さらなる対応が可能になった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新たな神学的テーマへの対応など、今後の指導体制についてFD研修会(研究科)で教員間における意見交換を行い、継続的に課題を共有する。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程においては、コース別かつ研究分野別に「履修モデル」を作成し(2011年度)、WEBサイトおよび『履修の手引』に掲載(公開)した上で履修指導で活用している(2012年度より)。特にキリスト教思想・文化コースにおける「履修モデル」では、どの研究分野についてもキリスト教思想、キリスト教文化に係る授業科目をモデル中に提示している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記「履修モデル」の提示により、学生へ一定の周知ができたと考えている。キリスト教思想・文化コース生の指導教員は「歴史・文化」分野における教員のほか、「実践」分野の教員も担当している(2012、2013年度)。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度に予定するカリキュラム改正の過程において修了要件の再検討を行いつつ、それぞれのコースの特徴を明らかにするとともに、専任教員全員が双方のコースを担当することを「履修モデル」などでさらに明確にしている。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆